〔生理学の広場〕

堀田　健先生を偲んで

名古屋市立大学名誉教授，元同大学医学部第一生理学講座教授，堀田　健先生は平成2年12月15日名古屋市立大学病院において結腸癌のため御逝去されました．享年68歳でした．

先生は大正11年，愛知県津島市にてお生まれになり，昭和17年浜松高等工業学校を卒業されてから6年ほど中学校教諭をしておられましたが，昭和22年名古屋大学理学部に再び入学されました．研究への夢がどうしても捨てきれなかったから，と奥様から伺っております．昭和33年同大学大学院物理学科を修了されると直ちに渡米され，Maryland 大学，Dartmas 大学，California 大学などに於て筋肉の収縮タンパク質の生物物理学的性質について研究されました．昭和37年に名古屋市立大学医学部第二生理学教室の故大原幸吉教授のもとへ助教授として赴任され，昭和46年に新田初雄教授の後任として第一生理学教室教授に就任され，昭和63年定年退官されました．

先生の御研究は，一貫して筋生理学，とくに骨格筋収縮の生物物理学的性質についてでありました．この道に入られるに当たって，Manuel F. Morales 教授（元 California 大学教授で，筋収縮の生化学的研究において日米科学研究交流に貢献した功績により，平成元年に叙勲（勲三等旭日中綬章）された）などの強い影響があったと伝え聞いております．骨格筋収縮の分子生理学的研究とともに筋病理学的研究も手がけられ，筋ジストロフィー症や神経性筋疾患などの難治病治療の基礎的研究も盛んになされました．先生は更に平滑筋の研究にも興味を示され，高血圧自然発症ラット（SHR）の動脈平滑筋においては Ca^{2+} の細胞内流入が正常血圧ラットより高くなっていることを見つけられるなど，高血圧発症に関してカルシウム学説の基礎となる研究をされ，昭和49年に三越医学賞を受けられました．

先生は大学内の研究や教育の運営にも尽力され，研究機器を多くの教室で共同利用できるシステムをいち早く名市大医学部に作り上げ，その機能的運営の基礎を作ることに砕身されました．また学生実習に用いる機器も常に改良を加えられました．市販の器具では御不満で，物理御出身らしく，新しい機械を御自分で作ることを得意とされ，現在残されている研究機器もそのどこかに改良の痕が認められます．

学会活動にも積極的に参加され，生理学会のなかで主に筋生理グループの方々と深い親交がおありでしたが，研究の視点は生理学の分野のみに留まらず，それを物語るように，参加しておられた学会は全日本鍼灸学会，日本生化学会，日本生物物理学会，日本臨床電子顕微鏡学会，日本癌学会など十数学会にのぼります．

このような生前の先生の御業績に対し，正四位勲三等旭日中綬章が贈られました．

昭和61年，先生は結腸癌を告知され，直ちに手術されました．その後，見たところ小康状態を保っておられ，あちこちの講義やシンポジウムへの要請が絶える事なく，お忙しい日々を過ごしておられましたが，亡くなられるまでの5年間，徐々に御自身の肉体が蝕まれていっても，その事に関しては，よそ目には全く意に介していない風を装っておられました．むしろ講義のためのプリントや新しい実験装置の工夫にすべての神経を奪われておられるような毎日が，病院のベッドの上で，お亡くなりになる直前まで続きました．

研究と教育を何よりも愛された堀田先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます．

（名古屋市立大学医学部第一生理学教室　鈴木　光）